



令和5年度

# 学校評価報告書

帝塚山中学校 高等学校



学校法人 帝塚山学園

## 令和5年度学校評価について

帝塚山中学校・帝塚山高等学校は、令和5年度の教育活動及びその他の学校運営の状況について、学校評価を実施しました。

学校評価は、本校生徒とその保護者、卒業生を対象とした各アンケート結果、保護者等との懇談会で寄せられた御意見等を活用のうえ自ら評価を行い、さらにその結果について学校関係者による評価を行いました。

このたびの結果を踏まえ、更なる教育水準の向上を目指して、教育活動及び学校運営の改善工夫に組織をあげて継続的に取り組んでいく所存です。

帝塚山中学校・帝塚山高等学校  
校長 小林 健

# 令和5年度 学校評価

## 1. 総括

学 校 名	帝塚山中学校・帝塚山高等学校
建学の精神	「社会に有為な人材を育成する」
重点目標 (教育目標)	総合的な人間力の育成と進学実績の向上
前年度の成果と課題	<p>[成果]</p> <p>ICT環境の整備を進めた結果、ICT機器を活用した授業は着実に増加した。ICT委員会やDX研修会で様々な授業改革や、AIドリルの選定、グーグルクラスルームの使い方の研究を行った。また令和5年度には、全学年（中学2年生以上の生徒にクロムブック、中1にはiPad）端末の導入が完了した。生徒同士が共同して取り組む課題を与えやすくなり、発表の場も増加しつつある。また、新型コロナウイルス感染症感染も5類に移行するに従い、行事も再開している。中高分けて実施した体育祭は、高校は悪天候のため実施できなかったものの、中学では中高同時開催の時よりも生徒の出番が増え、好評であった。なお、様々なプログラムを実施している特色教育については、グローバルキャリア教育として、中学3年生には、グローバルキャリア講演会、3月にはサイエンスキャンプなどの海外プログラムを3年ぶりに実施することができた。海外交流も全て復活した。</p> <p>[課題]</p> <p>生徒や保護者に負担をかけたコロナ禍での様々な制限を解除した。行事などもコロナ禍前に戻し、全生徒の生活がのびのびとしたものになるように心掛けたい。また、コロナ禍での制限で、保護者に学校の活動に参加してもらえる機会も極めて少なかった。それは保護者の不満ともなっていた。さまざまな学校行事への保護者の参加を求め、学校の情報を積極的に公開するように努める。特に今年はコーラスコンクールが復活する。従前のレベルは望むべくもないが、少しずつ元に戻していきたい。2027年度より高校共学化についても、丁寧かつ迅速に準備を進めながら、中学校高等学校の経営の安定化を推進したい。</p>

## 2. 自己評価

評価は4段階【A：十分である（よくできた）、B：ほぼ十分である（できた）、C：あまり十分でない（あまりできなかった）、D：改善を要する（できなかった）】

評価項目	具体的目標・方策及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価 結果	評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
1. 建学の理念に基づく教育目標・教育計画の共有化	① 全教職員に、本校の教育目標及び教育内容を伝える。 (年度始め合同職員会議資料)	A	① 年度始めの合同職員会議で学校経営方針を全教職員で共有するとともに、それに基づいた各分掌の計画を確認した。	① 全教職員に、本校の教育目標及び教育内容を伝える。
	② スクールミッション及びスクールポリシーの策定する。 (各ポリシー策定)	B	② 管理職会で、本校の現状と課題等について協議を行い、今後、目標をわかりやすく明確な表現にすることを確認し、3つのポリシーの原案を策定した。	② 令和9年度からの男女共学化をふまえ、スクールミッション及びスクールポリシーを策定する。
2. 教職員の資質及びスキルの向上を図る研修の実施	① 各種研修会を実施する。 (研修会実施内容及び実施回数)	A	①-1 合同職員会議後の第1回生徒指導研修会において、いじめ防止基本方針についての組織的な対応について確認した。第2回生徒指導研修会では、今年も外部講師を迎え、前向きな指導～自立成長型問題解決法～の研修を行った。 ①-2 8月と10月に進路指導研修会を実施した。 ①-3 7月4日に奈良県教育委員会事務局 特別支援教育推進室支援係 主査を招聘して研修会「特別支援教育の推進に向けて」を行った。 ①-4 校内の新任教員向けの研修会は年間6回実施できたが、全体の教員向けの研修会は実施できなかった。 ①-5 1学期当初に3回に分け、AED講習会を実施した。	① 各種研修会を実施する。 (研修会実施内容及び実施回数)
	② 教職員の資質及びスキルを高めるため、校外の研修にも積極的に参加する。 (校外研修の参加人数)	A	② 校外の人権教育研修会に参加した。	② 教職員の資質及びスキルを高めるため、校外の研修にも積極的に参加する。
3. 教科指導の充実強化	① 引き続き、ICT委員会で各教科別にアクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業改革を協議を踏まえ実践する。 (学校評価アンケートの該当項目での満足度80%以上)	B	① ICT教育の推進に関して情報交換を行い、各教科で推進した。ICTを利用した教具・教材は、教員ドライブで共有し、授業担当者の教材作成の負担を分散した。また、担当者による授業内容の差をなくした。	① 引き続き、ICT委員会で各教科別にアクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業改革を協議を踏まえ実践する。
	② 授業、ホームルーム、個別面談、保護者会でのICT機器の活用を推進する。 (学校評価アンケートの該当項目での満足度75%以上)	B	② 授業だけでなく、個別面談では、電子黒板とタブレットを使い、生徒が保護者と担任にプレゼンテーションを行った。保護者会でICT機器を用いた説明を行った。	② 授業、ホームルーム、個人面談、保護者会でのICT機器の活用を推進する。
	③ 中学校1年生から高校2年生までを対象に、AIドリルとして、Qubena(5教科)とMonoxerを利用する。 また、Classroomによるデジタル課題を利用する。 (情報端末の利用に関するアンケートにおける満足度75%以上)	B	③ 情報端末を導入した全クラス(全学年)において、授業ごとのポータルサイト(Classroom)を作成し、連絡手段として活用した。AIドリルについての利用率も向上しているが、クラス学年によるバラツキが大きい。	③ 中学1年生～高校2年生を対象に、AIドリルとして、Qubena(5教科)とMonoxerを利用する。また、Classroomによるデジタル課題を利用する。

4. 自主活動の充実強化	① スポーツ大会のほか、学園祭の企画・運営をする。また、中学リーダー研修会を実施する。 (学校評価アンケートの該当項目での満足度75%以上)	A	A	① 中学スポーツ大会は2つの外部施設にて男女に分かれて実施した。高校学園祭は、新型コロナウイルスの感染法上の分類が5類に移行される前の4月に実施した。学園祭実行委員である高校生が中学生に対し、企画を提供し催しへの参加を促すなど主体的な役割を担うことで中高の連携が深まり、中高一貫校として有意義な生徒会活動となった。中学リーダー研修会については、ISA(外部企業)と連携し、3学期2/17に実施。生徒達が主体的に意見を出す場となり、集団をまとめていくスキルの向上に役立つ内容となった。	① スポーツ大会のほか、高校学園祭・中学文化祭の企画・運営をする。また、引き続き中学リーダー研修会を実施する。
	② クラブ活動と学習の両立を図る。 (育友会、体育文化後援会発行の「中学校・高等学校 文化部・体育部活動記録」に記載して教職員、保護者に開示する。)	B	A	② 部活動での活躍は、朝礼やアセンブリなどで表彰し、全校生徒に認知した。また、「中学校・高等学校 文化部・体育部活動記録」により保護者、教員に開示した。	② クラブ活動と学習の両立を図る。
5. 人間力の育成	① 各ホームルーム担任が、教科書、その他の教材を用い、クラスの状況に応じて人権教育・道徳教育を実践する。 (授業展開資料、各クラス・グループでの発表資料)	A	A	① 今年度より月曜1限に朝礼の時間を設定し、発表などの諸活動や教科書を使用している道徳の授業を学校全体で行った。	① 各ホームルーム担任が、教科書、その他の教材を用い、クラスの状況に応じて人権教育・道徳教育を実践する。
	② 各学年推進委員と人権教育推進委員、管理職からなる委員会を定期的に実施する。 (人権通信に記載して教職員、保護者に開示する。)	A	A	② 定期的に入権教育推進委員会会議を実施した。	② 各学年推進委員と人権教育推進委員、管理職からなる委員会を定期的に実施する。
6. キャリア教育、国際理解教育の充実強化	① キャリア教育、校外学習などを実践する。 (特色教育実施内容及び実施回数)	A	A	① 卒業生など、各分野の第一線で活躍するプロフェッショナルを招聘した講演会や出張講義を開催し、将来のキャリアイメージ構築の一助とした。また、コース毎学年ごとの校外学習を実施した。	① キャリア教育、校外学習などを実践する。
	② シアトル海外研修、男子ハワイサイエンスキャンプ、女子ハワイSTEAMプログラムの内容を充実させる。高校1年生のエンパワーメントプログラム及び高校2年生のボストン研修を実施する。 (各プログラムでの参加人数(30人以上)、ボストン研修実施報告書、エンパワーメントプログラムアンケート報告書)	B	A	② 海外研修プログラムはコロナ禍前以上の参加人数で実施することができた。内容も従来より高いレベルでの教育活動を取り入れた。帝塚山エンパワーメントプログラムについては最少催行人数に達していないので、次年度には実施にむけて生徒・保護者に周知する。	② シアトル海外研修、男子ハワイ・サイエンスキャンプ、女子サンディエゴ・STEAMプログラムの内容を充実させる。高校1年生の帝塚山エンパワーメントプログラム及び高校2年生のボストン研修を実施する。
	③ グローバルキャリア発表会、講演会を継続実施する。 (発表資料、講演資料)	A	A	③ 外部から講師を招聘し、年5回の講演会を実施した。内、2回は対面で3回はオンライン形式であった。	③ グローバルキャリア発表会、講演会を継続実施する。

7. 規範意識と自律性の育成	①-1 いじめアンケート及び生徒規程の点検を継続実施する。	A	A	①-1 今年度は、いじめアンケートを複数回実施した。情報交換会等において教員間、学年間で連携を図り、いじめの早期発見・解決に向けた取り組みを継続した。生徒規定についても点検を継続実施した。	①-1 いじめアンケート及び生徒規程の点検を継続実施する。
	①-2 中学校朝礼、アセンブリを通じて生徒指導を実施する。 (学校評価アンケートで「生徒指導：生徒指導は充実しており、規範意識と自律性の育成に十分な成果をあげている。」とする回答の割合。(目標値：80%) )	A		①-2 全校朝礼・アセンブリは年間計画のもと、時機に応じ、全生徒に集団指導を行った。内容については、社会性、ルール、自律性、マナー、モラルに関する道徳的なものであり、全校生徒の規範意識の涵養を図った。	①-2 中学校朝礼、アセンブリを通じて生徒指導を実施する。
	②-1 月に一度、各学年の不登校生徒などの情報交換会を実施する。 (学校評価アンケートで「生徒指導：学校・担任は、個々の生徒の性格や諸事情に配慮した指導の実現に向けて努力している。」とする回答の割合。(目標値：80%) )	A		②-1 月に1度、生徒の登校状況や相談事案、保健室利用状況などについて、中高別に情報交換会を実施した。	②-1 月に1度、各学年の不登校生徒などの情報交換会を実施する。
	②-2 スクールカウンセラーによるカウンセリングを通して、家庭環境や生育歴などの背景を把握し、心理学的な観点から個別・学年・全校を対象にサポートを強化する。 (カウンセリング・コンサル・講演会・情報紙発行等の実施状況)	A		②-2 スクールカウンセラーによる相談活動によって心理学的観点からのサポートを行った。また、中学1年の生徒を対象に、スクールカウンセラーによるメンタルヘルスケア講演会(アンガーマネージメント講演)を、中学1年2年の保護者を対象に、スクールカウンセラーによる講演会(「思春期の子どもこのころ」)を実施した。この他にも、スクールカウンセラーのコラムや相談機関の紹介などを掲載した「教育相談室だより」を各学期に2回程度発行し、生徒や保護者に情報提供を行った。	②-2 スクールカウンセラーによるカウンセリングを通して、家庭環境や生育歴などの背景を把握し、心理学的な観点から個別・学年・全校を対象にサポートを強化する。
8. 進路指導の充実強化	①-1 保護者、生徒対象に進路指導講演会を実施する。 (進路状況報告書)	A	A	①-1 高3保護者会で進路指導部長、中学保護者会(希望者)で外部講師より入試情報や進学情報について講演を行い、情報の共有を図った。また、生徒対象については高校で各学年2回進路に関するアセンブリや外部講師による講演会を実施した。	①-1 保護者、生徒対象に進路指導講演会を実施する。
	①-2 現役生徒、過年度生の進路状況と在籍時の成績とひも付けて分析する。 (進路状況報告書、難関国公立50名以上)	A		①-2 今年度難関国公立(難関10大学+国公立医学部)の合格総数は78名となり、該当生徒の共通テスト得点や在籍時の模試成績との紐づけを行った。	①-2 現役生徒、過年度生の進路状況と在籍時の成績とひも付けて分析する。

	<p>①-3-1 教務部、進路指導部が中心となり各種入試分析会への参加と情報の共有化を行い、令和5年度大学入試に向けた校内分析会を行う。また、学年会・教科会とも連携を密にし、学校全体で難関大学合格など生徒の進路実現にむけた進路指導体制の構築を目指す。 (令和6年度大学入試への対策)</p>	A	A	<p>①-3-1 8月に全教員を対象とした進路指導研修会を実施した。進路指導研修会では新課程入試と最新の医学部入試情報について外部講師を招いて講演会を行った。また、10月には全教員を対象に進路指導部長より近況把握や進路指導観の共有をねらいとした教員研修を行った。各種研究会への案内は定期的にメールにて周知した。</p>	<p>①-3-1 教務部、進路指導部が中心となり各種入試分析会への参加と情報の共有化を行い、令和7年度大学入試に向けた校内分析会を行う。また、学年会・教科会とも連携を密にし、学校全体で難関大学合格など生徒の進路実現にむけた進路指導体制の構築を目指す。</p>
	<p>①-3-2 大学入試に向けたセミナー講座の設置及び効果的な実施を各教科で検討し、講座内容を決定する。 (大学入試セミナー講座内容及び受講人数(目標値:7割以上))</p>	A		<p>①-3-2 教科主任を中心にセミナー講座の設定についての検討を重ね、学年主任やコース部長による確認・議論を経て適切な講座内容を決定した。</p>	<p>①-3-2 大学入試に向けたセミナー講座の設置及び効果的な実施を各教科で検討し、講座内容を決定する。</p>
9. 教員評価・教育成果の検証	<p>①-1 保護者アンケートを実施し、アンケート結果のうち60%以下の項目について対応する等、その結果を積極的に活用する。 (学校評価アンケートの該当項目での満足度(目標値:80%))</p>	A	A	<p>①-1 6月に2、3年生の保護者アンケートを実施した。集計結果をまとめ11月の保護者会で報告した。いずれの学年も、総合的満足度を尋ねた項目では、肯定回答が80%前後あり、概ね本校の教育を評価していただいている結果となった。</p>	<p>①-1 保護者アンケートを実施し、アンケート結果のうち60%以下の項目について対応する等、その結果を積極的に活用する。</p>
	<p>①-2 Classroomを用いた新たなアンケートを開発し、実施する。 (授業アンケート結果における満足度75%以上)</p>	A	A	<p>①-2 全員とは言えないが、利用できる教員から授業アンケートのデジタル化を行った。今後も進めていきたい。</p>	<p>①-2 Classroomを用いた新たな授業アンケートを開発し、実施する。</p>
	<p>①-3 重点目標を踏まえた自己評価結果に基づき、教員評価を実施する。 (教員評価結果)</p>	A		<p>①-3 自己評価をGoogleフォームを使って実施した。そのことにより、記入量が増え、自己の分析につながった。</p>	<p>①-3 重点目標を踏まえた自己評価結果に基づき、教員評価を実施する。</p>
10. 各学校との連携強化	<p>① 高大連携による大学教員(外部、内部)特別講座を高校2年生に実施する。 (講座内容及び講座数(目標値:4講座))</p>	B	B	<p>① 本年度は高校2年生に大学教員による特別講座を実施せず、本校卒業生を11名呼び大学での学びを後輩たちに伝える企画を行った。令和5年度は高2女子を対象とした勉強合宿で帝塚山大学と連携を取り、東生駒キャンパスの施設を利用して実施した。また併設校特別推薦の告知を徹底し、帝塚山大学の入試広報課と連携をとって内部進学率向上を図った。</p>	<p>① 勉強合宿や共通テスト自己採点などで適切に大学施設を利用する。また併設校特別推薦の告知を徹底し、大学の入試広報課と連携をとって内部進学率向上を図る。</p>
	<p>② 「小中内部進学推薦制度」により、内部小学校からの進学者の増加を図る。 (内部進学率の増加(60%以上))</p>	B		<p>② 小学校からの内部進学率については、目標に達しなかった。</p>	<p>② 「小中内部進学推薦制度」により、内部小学校からの進学者の増加を図る。</p>
	<p>③ 国公立大学との連携を密に行い、キャンパスツアー等の実施を計画し、生徒への参加を促す。 (キャンパスツアー参加人数延100名以上)</p>	A		<p>③ 京都大学、大阪大学、神戸大学へのオープンキャンパスを企画し、引率した。京都大学では、大学の入試課と連携し、100名収容の講義室を借り、卒業生20名ほどに協力してもらい実施した。</p>	<p>③ 国公立大学との連携を密に行い、キャンパスツアー等を計画し、生徒への参加を促す。</p>

11. 組織運営の充実強化	①-1 毎週1回運営委員会を実施する。 (議事録に記載して、教職員に開示する。)	A	A	①-1 月曜日の3限に定期的に校務分掌長・コース部長・学年主任からなる運営委員会を開催し、学校運営の強化を図った。	①-1 毎週1回運営委員会を実施する。
	①-2 各教科、ICT教育、アクティブラーニング等、教育内容の研修を行う。 (授業アンケート結果における満足度75%以上)	A		①-2 AIドリルの研修会(DX研修および国数社理の教科会)を実施した。	①-2 各教科、ICT教育、アクティブラーニング等、教育内容の研修を行う。
12. 安全管理・保健管理の実施	①-1 救命救急講習会を充実させる。救命救急医による研修及び消火訓練の実技研修を行う。 (救命救急講習会の実施内容及び研修回数)	A	A	①-1 非常勤講師を含む全教員に救命救急講習を実施。非常勤講師に関しては、新年度の最初に行うとともに、専任教員も第1回定期考査中に実施し、以降は主な学校行事の実施前に行った。	①-1 救命救急講習会を充実させる。救命救急医による研修及び消火訓練の実技研修を行う。また、学校危機管理に関する研修およびさまざまな感染症に対する研修を行う。
	①-2 緊急時の避難経路の見直しと避難経路を再考する。教室配置とクラス人数を勘案し、最適な避難経路を検討する。 雨天時等のグラウンドへの避難が困難な場合等の避難訓練を実施する。 (避難訓練実施報告書)	A		①-2 雨天時でグラウンドへの避難が不可能な場合を想定し、講堂と体育館および体育室1・2の4カ所に分かれての緊急時の避難経路及び点呼確認を行った。大きな混乱や問題もなく、グラウンドへの集合時刻より早く点呼確認まで終了することができた。	①-2 教室の配置をもとに緊急時の避難経路の見直しと避難経路を再考する。クラス人数をもとに最適な避難経路を検討する。雨天時等のグラウンドへの避難が困難な場合等の最適な避難場所を検討し、避難訓練を実施する。
	②-1 健康診断を通じた保健指導を行う。	A		②-1 全生徒にアレルギー情報を報告させ教員への周知を行った。	②-1 健康診断を通じた保健指導を行う。
	②-2 学年旅行における食物アレルギー自己防止に努める。	A		②-2 旅行実施前に再度確認し、旅行中の安全を図った。	②-2 学年旅行における食物アレルギー事故防止に努める。
	②-3 保健教育講演会を実施する。 (学校評価アンケートの該当項目での満足度80%以上)	A		②-3 高3を除く全学年で実施した。	②-3 保健教育講演会を実施する。
13. 入試及び募集活動の強化	① 募集対策担当教員による関係機関との情報交換を密にする。 (出願者数(中学校目標値:1,800名、高校目標値:800名))	A	A	①-1 中学出願者数は1,805名(昨年より14名減)となったが、目標値を達成した。高校出願者数は960名(昨年より126名増)となり、目標値を達成した。	① 募集対策担当教員による関係機関との情報交換を密にする。
	②-1 クラブ活動など生徒の様子を多く紹介し、ホームページの充実を図り、アクセス数を維持する。 (ホームページアクセス数(目標値:20万件))	A		②-1 クラブ活動や特色教育の内容を多く紹介できた。	②-1 クラブ活動など生徒の様子を多く紹介し、ホームページの充実を図り、アクセス数を維持する。
	②-2 説明会・各ブース等で本校教育内容の理解を深めてもらう等、募集情報(本校の教育内容)の見せ方を工夫する。 (説明会の参加人数(前年比5%増))	A		②-2 京都、梅田、阿倍野、学校で3回と動画による説明会を実施した。	②-2 説明会・各ブース等で本校教育内容の理解を深めてもらう等、募集情報(本校の教育内容)の見せ方を工夫する。

14. 学校評価の実質化	①-1 ICT教育を中心に各教科の授業研究を推進する。各教科の公開授業を行い、教員、生徒のアンケート結果を基に、より効果的な内容を検討する。 (公開授業指導案、教員及び生徒アンケート結果における満足度75%以上)	A	A	①-1 コロナ禍も漸く終わったものの、公開授業・研究授業は行っていない教科が多い。ただしICT教育の推進に関しては常に情報交換を行い、各教科推進した。	①-1 ICT教育を中心に各教科の授業研究を推進する。各教科の公開授業を行い、教員、生徒のアンケート結果を基に、より効果的な内容を検討する。
	①-2 各教科授業アンケートを継続実施するとともに、その結果を踏まえ自己評価を実施する。 (授業アンケート結果又は結果報告書)	A		①-2 各教科で授業アンケートを実施した。できる人から、デジタルによるGoogleフォームを使ったアンケートを実施した。	①-2 各教科授業アンケートを継続実施するとともに、その結果を踏まえ自己評価を実施する。
	② 学校関係者評価委員会を開催し、評価結果を踏まえ対応可能な内容を実行する。 (学校関係者評価において指摘された項目の改善の進捗状況)	A		② 5月13日に学校関係者評価委員の方々にご来校いただきご意見をいただいた。	② 学校関係者評価委員会を開催し、評価結果を踏まえ対応可能な内容を実行する。
15. 経営安定化策の強化	① さくら連絡網を活用し、保護者、教員への伝達事項を行い、引き続き印刷費等を節減する。また、教員の作業の軽減及び物品費の節減にも努める。 (印刷費の節減及び教員の作業の軽減、機器・設備費の節減(前年比10%減))	A	A	① さくら連絡網を活用し、従来印刷して配布していた案内や冊子をPDFで配布した。	① 引き続きさくら連絡網を活用することと、どうしても発生する紙資料の質の見直しにより、印刷費の削減を実現する。
	② 令和6年度中学校入試において、9クラス編成を実現させる。 (クラス数(目標値:9クラス))	A		② 令和6年度中学入試の結果、入学者は327名、9クラス編成となった。	② 令和7年度中学校入試において、9クラス編成を実現させる。

### 3. 学校関係者評価

(学校関係者評価実施日：令和6年5月10日。)

学校関係者評価委員会委員：帝塚山中学校・高等学校育友会会長、副会長、  
帝塚山中学校・高等学校体育文化後援会会長、副会長（2名）、帝塚山小学校校長）

意見	改善方策
<p>① クラブ活動について、男女どちらかしか所属できないクラブがあるが、それらを均等にしていけるできないか。</p> <p>② 世間でも学校のクラブ活動の在り方が話題になっているが、本校でも第三者を入れていくことはできないのか。</p> <p>③ クラブに全員参加しなければならないことに抵抗を感じて、学校に行きづらくなったり友人関係に影響が出たりする生徒もいると聞いているが、その点についてはどのように考えているのか。また、やりたいことがあってもそのクラブがないときに、新たにクラブを設立するのはとてもハードルが高いようだが、もっと同好会を認めるなど、生徒のやりたい気持ちを具現化することはできないのか。</p>	<p>① 昨今の働き方の問題や少子化による教員数の減少などの理由により、指導できる教員が確保できないという課題があり、なかなかすべてのクラブを男女均等に所属できるようにするのは難しいのが現状であることをご理解いただきたい。</p> <p>② 本校でも、退職した元教諭を部活動指導者として雇用し、クラブ顧問として配置しているクラブもあるが、第三者を入れた場合に学校側が安全管理できる体制やシステム作りが課題である。</p> <p>③ 学校側も生徒のやりたい気持ちをもっと後押ししたいと思っており、現状の枠組みでは難しいところも、管理職一丸となって少しずつ変えていきたいと考えている。生徒も多様化してきており、そういったいろんな生徒が学校生活を楽しめるようにする。</p>
<p>④ 学園祭については、生徒の「やりたいこと」を発表できる場が組み込まれていたところがすごくいい機会になっていると思う。そうして生徒が楽しんでいる場を見て、保護者も非常に安心するものである。</p>	<p>④ そういう場が必要だとはずっと認識していたが、ここ数年間、新型コロナウイルス感染症の影響で、なかなかそれができずに歯がゆい思いであった。今年の学園祭やその他の行事での生徒たちが心から楽しんでいる笑顔を見て、教員側も非常に嬉しく、これからもこのような取組みを支援していくと同時に、生徒の活動を保護者の方に見ていただける機会も増やしていく。</p>
<p>⑤ 海外研修について。現地の受け入れ態勢（ホームステイ先）について、家庭によりかなり対応にバラつきがあると聞いている。こちらが受け入れる側になった場合も含め、もう少し詳細なガイドラインなどがあった方がよいのではないかと。また、研修後のフィードバックが保護者にもあるとありがたい。</p>	<p>⑤ コロナ禍で海外研修も4年途絶えており、受け入れ側の経験値も下がっていることも原因の一つではないかと考えているが、これについては今後検討していく。また、帰国後の振り返りや生徒の発表等は行っているが、いただいたご意見は国際交流担当とも共有し、今後の検討課題とする。</p>
<p>⑥ 遠足や修学旅行等、学校ではない場所が集合場所になることがあるが、特に中学生の保護者としては、初めての場所にちゃんと到着できているのか不安である。出発時に、さくら連絡網で「全員そろったのでこれから出発します」という旨を配信してもらえると安心できるのだが、そういった対応はしてもらえないのか。また、遠足や旅行中の携帯電話の使用は認められないのか。</p>	<p>⑥ 現場の引率教員は、生徒の点呼をとったり忘れ物の対応や移動手段の案内をしたりとかなりバタバタしているため、そこでさくら連絡網の配信手配をする時間的余裕はないのが現状である。生徒の携帯電話・スマートフォンの使用については、一部写真撮影などを認めることもあるが、その写真をSNSに投稿することでトラブルにつながるケースもあり、そういった問題を未然に防ぐために、制限せざるを得ない状況でもあることをご理解いただきたい。</p>
<p>⑦ 今年は5年ぶりにコミュニケーションパーティーが開催されることとなったが、この開催がなかった期間が分断期となり、なかなか参加する意義が保護者に伝わらないのではないかと。特に1年生の保護者にとっては、これから保護者同士のつながりを作っていくよい機会になるし、また先生方とゆっくりお話する年に1回の機会でもあるので、育友会・体育文化後援会の役員のみならず、どなたでもご参加いただけるよう広く声をかけていただきたい。</p>	<p>⑦ 学校側も保護者の方からいろんなご意見をいただける機会是非常にありがたく思っている。さくら連絡網で全員に案内を配信するが、育友会や体育・文化後援会の役員の方々からもお声掛けをお願いしたい。</p>